

Department of Pediatrics, Tsukiyama Hospital 月山病院小児科

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000
E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/> (～はキ-ボ-ドの@の上の^をshiftで変換)

今月の小児科診察予定

2月11日(建国記念日)は9-12時において診察をおこないます
2月の火曜日は午後から大学診察、保健所勤務、等のため時間外対応できません
2月19日(水)は私用のため時間外対応できません



脱水
水分の摂取が不足した時によく脱水という言葉を目にするかと思いますが、我々医療関係者もよく使いますが理解しずらいかもしれません、今回は脱水についてお話します
脱水ってなに？
脱水とは体に含まれる水分が異常に体から出ていくことで、体から出ていく水分に比べ体に入ってくる水分が少ない時におこります、子供は大人に比べ脱水になりやすいことが特徴です
原因は？
下痢や発熱、熱中症(熱によって皮膚から出ていく水が多くなる)など水分が出ていくことによつておこることもあるのですが、最も頻度が多いのは嘔吐に伴うものです、嘔吐があると嘔吐によつて水分が出ていくだけでなく、吐気によつて水分が飲めないことによつて脱水が急速に進行してしまふからです
症状は？
唾液が粘つくくなり、舌が乾いてきます、尿の濃さについてはあまり気にする必要はありませんが、尿の回数が増えてきて1日2回程度まで落ち込んできます、ひどくなると活動性が落ちてもらうこととなりあまりしゃべらなくなりまふ
家庭内処置は？
嘔吐があつた後すぐには飲まずに2、3時間あけてから少量づつ水分を与えます(数時間で脱水になることはありません)本人が欲しがつても食事は控えて下さい
薬は？
水分摂取が最も優先される薬です、吐気が強い時には座薬を使うこともあります、内服のお薬は水分が十分にとれるようになってから与えて下さい
医療機関では？
水分がとれず脱水が進んでいると判断した場合、注射で水分を補給します(栄養は補給できません)腎機能、ナトリウム、血糖などをチェックし脱水の程度を検査することもあり、その程度によつては入院していただくこともあります

月山病院小児科では子供達に有益な情報をお知らせするために月一回院内報を発行しております

今月の顔

今回は年賀状特集です、ありがとうございました



連載：今月はこんな月 2月はこんな月

感染症ではインフルエンザは残存するものの徐々に患者数は減少していきまふ、一方しつこい腸炎として有名なロタウイルスによるものが増加してきます、ロタウイルスの場合は嘔吐や下痢が2-3週間も続くことがあります、感染症においては予防が大切でうがいや手洗いをしっかりおこなうようにしましょう、感染症以外では中旬頃から花粉がとびはじめまふ、今年は近畿では例年よりも多いとのことで注意が必要で、例年花粉症に悩まされておられる方は飛散前に内服を開始すると効果が高いとされています、主治医の先生と相談してみまふ

インフルエンザの流行状況(2月上旬)

2月1日現在、和歌山市ではインフルエンザ感染症が流行していきまふ、患者数自体は減少傾向のようですが、2月下旬までは注意が必要で、検査薬やお薬については不足が続いており、検査できない場合やお薬を処方できない場合もでてきていきまふ、しかし、まずは主治医の先生と御相談のうえ治療方針を決定していただくことが重要で、インフルエンザ最新の流行状況等は当科のホームページやインフルエンザ情報サービス(<http://influenza.elan.ne.jp>)などで御確認下さい